



知られざる

ランチェスター先生の経歴

【マル秘メルマガ】より 18 通目その 1

今回から、あまり世に知られていないランチェスター先生（フレデリック・ウィリアム・ランチェスター）の経歴を皆様にお伝えしようと思います。

この記事の作者、ジョージ・ハーバート・ランチェスター（1847～1970 年 95 歳没）は、ランチェスター兄弟の 8 番目の子でフレデリックの 6 歳下の弟・末っ子として生まれました。

彼は温厚実直な性格で、兄とは正反対の性格でした。

手先が大変器用で、部品の製作や組み立てに高い能力を発揮し兄フレデリックの仕事に協力しています。

死の数年前、視力は殆ど失われた中を、手さぐりでランチェスターカーの模型を作り上げました。長さは 20 c m そこここであるのに、タイヤのスポークも 1 本 1 本丁寧に作られています。これは現在プラスチックのケースに納められ、コベントリー大学図書館の一角にあるランチェスター記念館に展示してあります。

では、ご覧下さい。

◆はじめに

晩年になって兄の Dr・フレデリック・ランチェスターは何度か自分の自叙伝を書こうとしてみたがどの原稿も満足のいくものが出来なかった。

兄の残した原稿を見ていて“自叙伝書きおろしに関する随筆”を見つけたので一部引用してみよう。

「人が乗り出そうとする最も危険な冒険の一つは、自分自身の自伝を書こうとすることである。」

私自身、作り物の小説を読むより何か良い自叙伝を読みたいと思っている矢先なのである。というのは、フィクションを読むよりも、実際の生活を観察するほうがもっと楽しいことが分かるからだ。

しかし、それは上手に構成されていなければいけない。

我々がどんなことをしても過去の日々に自分をつれもどすことは出来ないし、遠い昔の文明人やその当時の人々の生活を今に見ることも出来ないのだ。

従って、その一時期の様子を物を書くことによって後世に残す時、その時代の再設定が生きた画像として、我々の目前にくりひろげられるという道筋になるのである。

多くの才能ある物書きがいるし、また、今までも存在していて、一時期非常に活躍し、素晴らしい精神や文明を感じとった歴史上の人物達の生涯が鮮明に描き出されるのである。

フレデリック・ウィリアム・ランチェスター

私が個人的に思うことだが、自叙伝作者というのは、自分の子供時代または、後年になって作りあげた行動とか考えを極端にやきつけようとする誤りを時折おかすことがある。

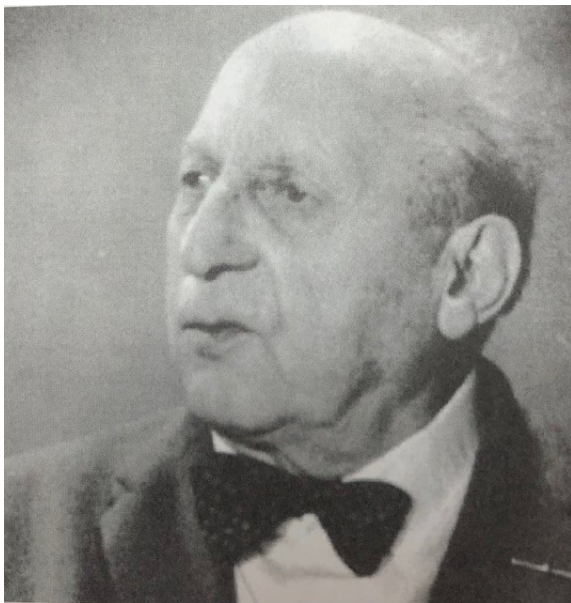
この点においては過去の出来事を、公平に、かつ上手に書くことの出来る人によって書かれた自叙伝はより正確なものであり、自叙伝作家自身によって書かれたものより、説得力のあるものになるに違いない。

兄は自分の子供時代に関して、わずかの資料しか残していない。が、幸いなことに手書きのコレクションが多数あり、これが兄の生涯を記すための私に与えられた大きな財産であり特権でもある。

また、それには兄の伝記を書くのに十分なものがあつた。

ジョージ・ハーバード・ランチェスター

(続く)



著者：ジョージ・ハーバード・ランチェスター
1964年（昭和39年）89歳の時に撮影

Lanchester ランチェスター経営（株）

〒810-0012 福岡市中央区白金 1-1-8 チュリス薬院 301

TEL 092-535-3311 FAX 092-535-3200

メールアドレス customer@lanchest.co.jp HP <https://www.lanchest.com>

